

\*\*\*\*\*  
開講科目名：特殊演習（税法指導）（4単位）  
開設年次：2年 3年 4年  
開設学部：法学研究科修士課程法学専攻  
担当者：渡辺 基成  
\*\*\*\*\*

《授業の概要》

《授業の目標》

租税法を研究するには、実学の側面と公平の側面がある。租税法律主義の原則に基づく租税実体法の理論や解釈は、民法や商法等の諸概念（いわゆる借用概念）を前提とする場合が多い。それらが、「行為規範」として処理されなければならないところに特徴がある。租税実体法が課税権限の「範囲と限界」について正確に理解し、問題発見能力を身につけたい。また、わが国は、「通達行政」の典型である税務行政の特殊性に留意し、実務界で起きている現象について受講生と一緒に研究していく。

《授業の内容》

租税負担の発生の法的メカニズムを理解してもらうため、租税実体法に規定された課税要件（課税対象の定義、課税対象金額の計算方法、課税方法等）とその理解を中心として演習を行う。また租税実体法の専門的知識を習得するため、通説・判例を含めた解釈と理論的根拠を追求する。特殊演習という科目のため受講者が、修士論文作成という目的にそって毎回各自のテーマについて発表してもらう。